

令和5年度

建設業社会貢献活動推進月間

～ 功労者表彰受賞者名簿・受賞事例概要 ～

令和5年7月26日

一般社団法人 全国建設業協会

令和5年度 建設業社会貢献活動推進月間 受賞者名簿・受賞事例概要

【目次】

1. 建設業の社会貢献活動と中央行事について	1
2. 受賞者名簿	3
社会貢献・SDGs活動功労者表彰	3
広報活動功労者表彰	5
3. 受賞事例概要	7
社会貢献・SDGs活動事例【第3条(協会・支部)】	7
社会貢献・SDGs活動事例【第4条(会員企業)】	14
広報活動事例【第3条(協会・支部)】	20
広報活動事例【第4条(会員企業)】	21

1. 建設業社会貢献活動と中央行事について

「企業の社会的責任」(CSR)は、企業活動のプロセスに経済性や法令遵守にとどまらず、環境への配慮や社会的倫理性などを組み込み、様々なステークホルダー(利害関係者)に対する説明責任を果たすことにより、社会から信頼を受け、事業を継続的に発展させる活動ですが、近年、この CSR が企業評価の重要な要素となっています。

建設産業は、社会資本の整備を通じ、「国土の保全」、「地域の安全・防災」、「利便性の高い暮らし」等を実現し、社会に貢献してきました。本会傘下の各建設業協会並びに会員企業は、地域の基幹産業である建設業の社会的責任と使命を強く認識し、地域経済の活性化、雇用の確保に貢献するのみならず、国・地方自治体との災害協定に基づき、災害発生時には、住民の安全・安心を確保するため、不眠不休で応急復旧活動に取り組んでいます。しかしながら、このような地域建設業の取り組みは、マスコミ等において正しく報道される機会が少なく、建設業界も積極的な PR 活動を行ってこなかったため、国民・社会にあまり知られていない状況にありました。

このため、本会では、平成 18 年度より毎年 7 月を「建設業社会貢献活動推進月間」と定め、月間期間中の活動の一環として、各都道府県建設業協会並びに会員企業と連携し、地域建設業界の実践している幅広い社会貢献活動及び広報活動を国民・社会に広くアピールするため、毎年中央行事を開催しております。中央行事では各地域で実践された様々な社会貢献活動と、建設業のイメージアップ広報活動について各都道府県建設業協会を通じて広く収集し、優れた活動事例については、全建表彰規程に基づき表彰部会での厳正な審査・選考を経て、功労者表彰として顕彰を行っております。

この度、令和 5 年度の中央行事の開催にあたり、各都道府県建設業協会から様々な社会貢献・SDGs 活動、広報活動をご推薦いただき、表彰部会において厳正な審査を行った結果、都道府県建設業協会・支部等を対象とした社会貢献・SDGs 活動を第 3 条関係で 30 事例、会員企業を対象とした第 4 条関係で 24 事例、広報活動は第 3 条関係で 5 事例、第 4 条関係で 5 事例、計 64 事例の受賞が決定しました。

(1)表彰事例について

◆本会会員(各都道府県建設業協会)に対する表彰規程

全建表彰規程第 3 条 1 号「積極的に社会貢献活動等に努め、他の団体の模範となる会員」に基づき表彰

◆地方協会の会員(会社又は個人の営業所)の社会貢献活動等に対する表彰規程

全建表彰規程第 4 条 5 号「積極的に社会貢献活動等に努め、その功績が顕著な会員」に基づき表彰

◆活動の期間等

令和 4 年 4 月 1 日～令和 5 年 3 月末日の期間に実施した優れた社会貢献・SDGs 活動、広報活動。原則 3 年以上継続かつ主体的な活動。

◆表彰される社会貢献活動等の内容

(i)社会貢献・SDGs 功労者表彰

①災害復旧・防疫活動

自然災害(地震、台風、豪雨、豪雪等)における応急復旧活動、土砂・流木処理・除雪対応、救助活動、防疫活動等

②防災支援活動

自治体等との防災訓練の実施・協力、各種パトロール活動、消防団活動等

③地域活性化への取組

まちづくりや地域イベントへの協力、建設企業活動等を通じて快適な地域生活の創出や雇用の確保等地域活性化に向けた活動等

④環境美化・保全活動

河川・道路等の清掃活動、森林・公園等の環境美化・保全活動、植林・植樹・植栽、ビオトープ等

⑤社会福祉活動

献血活動、社会福祉施設等への協力活動、子供 110 番、地域パトロール等の防犯活動等

⑥SDGs への取組

SDGs 宣言等を行い、SDGs 達成に資する優れた取組等

⑦その他

(ii)広報功労者表彰

①建設業ふれあい活動

親子現場見学会の開催、建設機械試乗体験、児童を対象とした工作・木工・絵画教室等の実施、建設フェアの開催等

②SNS、映像、メディアによる広報活動

SNS を活用した広報活動、テレビ番組・ラジオ番組への出演等

③広報ツール、アイテムの活用による広報活動

キャッチコピー、オリジナルキャラクターの設定、配布物などによる広報活動

④商業広告による広報活動

テレビ・ラジオ CM の作成、電車やバス、駅などへのポスター掲示、その他広告の出展等

2.令和5年度社会貢献活動推進月間功労者表彰受賞者

◆社会貢献・SDGs功労者表彰

[規程第3条関係] (30協会・支部)

(災害復旧・防疫活動)

◇災害復旧・防疫活動

新潟 | 一般社団法人 新潟県建設業協会 村上支部

◇災害復旧活動

山梨 | 一般社団法人 峡北地区建設業協会

静岡 | 一般社団法人 島田建設業協会

滋賀 | 一般社団法人 滋賀県建設業協会 伊香支部

◇防疫活動

岩手 | 一般社団法人 岩手県建設業協会 奥州支部

岩手 | 一般社団法人 岩手県建設業協会 千厩支部

茨城 | 一般社団法人 茨城県建設業協会 水戸支部

茨城 | 一般社団法人 茨城県建設業協会 土浦支部

茨城 | 一般社団法人 茨城県建設業協会 常総支部

茨城 | 一般社団法人 茨城県建設業協会 境支部

群馬 | 一般社団法人 群馬県建設業協会 太田支部

群馬 | 一般社団法人 群馬県建設業協会 桐生支部

群馬 | 一般社団法人 群馬県建設業協会 館林支部

群馬 | 一般社団法人 群馬県建設業協会 前橋支部

埼玉 | 一般社団法人 埼玉県建設業協会 大里支部

埼玉 | 一般社団法人 埼玉県建設業協会 川越支部

埼玉 | 一般社団法人 埼玉県建設業協会 北埼玉支部

埼玉 | 一般社団法人 埼玉県建設業協会 飯能支部

岡山 | 一般社団法人 岡山県建設業協会 関係する8岡山県建設業協会

宮崎 | 日向地区建設業協会

宮 崎 | 高鍋地区建設業協会

(防災支援活動)

群 馬 | 一般社団法人 群馬県建設業協会

山 梨 | 一般社団法人 甲府地区建設業協会

山 梨 | 一般社団法人 市川建設業協会

奈 良 | 一般社団法人 奈良県建設業協会

(環境美化・保全活動)

岩 手 | 一般社団法人 岩手県建設業協会 一関支部

宮 城 | 宮城県建設業協会仙南支部

宮 城 | 宮城県建設業青年会

富 山 | 富山県建設業協会 砺波支部 青年部会

佐 賀 | 一般社団法人 建設業協会佐賀

[規程第4条関係] (24社)

(災害復旧・防疫活動)

◇災害復旧活動

和 歌 山 | 株式会社 小森組

(地域活性化への取組)

北 海 道 | 丸彦渡辺建設 株式会社

福 島 | 渡富建設 株式会社

静 岡 | 株式会社 小原組

(環境美化・保全活動)

北 海 道 | 岩田地崎建設 株式会社

北 海 道 | 不二工営 株式会社

岩 手 | 宮城建設 株式会社

宮 城 | 伸和興業 株式会社

宮 城 | 株式会社 春日部組

福 島	佐藤工業 株式会社
福 島	藤田建設工業 株式会社
福 島	石川建設工業 株式会社
群 馬	田畑建設 株式会社
神 奈 川	株式会社 小島組
長 野	株式会社 小宮山土木
静 岡	株式会社 小松組
富 山	株式会社 牧田組
富 山	安達建設 株式会社
石 川	池田建設工業 株式会社
鹿 児 島	株式会社 常盤建設

(社会福祉活動)

宮 城	寺嶋建設工業 株式会社
富 山	株式会社 ミヤマサ建設

(SDGsへの取組)

宮 城	株式会社 橋本店
愛 知	株式会社 加藤建設

◆広報功労者表彰

[規程第3条関係] (5協会・支部)

(建設業ふれあい活動)

青 森	青森県建設業協会 青年部会 東青支部
福 井	一般社団法人 福井県建設業協会 青年委員会
和 歌 山	有田建設業協会 和歌山有田建有会

(SNS、映像、メディアによる広報活動)

栃	木	一般社団法人 栃木県建設業協会
高	知	一般社団法人 高知県建設業協会

[規程第4条関係] (5社)

(建設業ふれあい活動)

栃	木	永野川改良復旧工事等安全協議会
滋	賀	有限会社 竜王興産
兵	庫	株式会社 秋山組

(SNS、映像、メディアによる広報活動)

北	海	道	株式会社 砂子組
岡	山	株式会社 蜂谷工業	

3. 受賞事例概要

◆社会貢献・SDGs活動事例概要【第3条(協会・支部)】

令和4年8月の局地的豪雨における
災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人峡北地区建設業協会(山梨)

令和4年8月24日午後7時頃、北杜市大泉町が局地的な集中豪雨に見舞われ、1時間に130mm～150mmの記録的な大雨となった。

この大雨により、県道11号・北杜富士見線の複数箇所、土砂崩落を引き起こし山梨県内でも前例のない大規模災害となった。

峡北地区建設業協会は翌日に山梨県から、災害応急復旧の要請を受け、土砂・流木・転石・壊れた落石防護柵等の撤去・搬出作業や、仮設防護柵の設置等を行い約2週間で復旧作業を完了させた。



令和4年8月の豪雨における災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人滋賀県建設業協会伊香支部(滋賀)

令和4年8月4日からの豪雨によって河川の氾濫、道路への土砂流出が発生したため、滋賀県長浜土木事務所木之本支所からの応援協力要請を受け、伊香支部は会員のパトロールにより各地域の被害状況を把握し、会員を被害箇所へ派遣した。

県道中河内木之本線が高時川の氾濫により一時通行不能に陥ったものの、会員の迅速な復旧作業により5日午後には片側通行が可能になるまで回復した。



令和4年9月の台風15号における
災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

一般社団法人島田建設業協会(静岡)

台風15号は、9月23～24日に島田市内の24時間最大雨量が500ミリを超えるなど、記録的な大雨をもたらし、静岡県内では中西部を中心に、大きく被害を受け、崩土による孤立集落の発生や停電、通信障害、断水、鉄道や道路の通行止めなどライフラインに大規模な影響があった。

島田建設業協会の会員企業は、災害協定に基づき、地域住民の一刻も早い「安心・安全」を確保するため、災害の応急復旧に迅速に全力で対応しました。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人岩手県建設業協会奥州支部(岩手)

令和5年3月13日に岩手県胆沢郡金ヶ崎町地内で高病原性鳥インフルエンザの疑いが発生し、14日に鳥インフルエンザが確定した。

岩手県と岩手県建設業協会が締結している「家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定」に基づき、奥州支部に対し埋却処分に関する要請があり、鳥インフルエンザ等発生時対応要領に基づき人員の確保や重機の手配を行うとともに埋設溝を掘り殺処分した鶏の運搬・埋却を行うなど防疫対策に大きく貢献した。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人岩手県建設業協会千厩支部(岩手)

令和4年5月11日、岩手県一関市藤沢町内で高病原性鳥インフルエンザの簡易検査で陽性が確認された。翌12日に擬似患畜の決定を受け、岩手県建設業協会千厩支部は県との家畜伝染病における緊急対策業務に関する協定に基づき、防疫対応における埋却作業などに従事した。

事案発生から感染拡大防止のために迅速な対応が求められ、第一報を受けた直後から人員の確保や重機の手配を実施、埋却作業では現場の状況に即した掘削を行うなど、防疫対応に大きく貢献した。



鳥インフルエンザ防疫活動・

CSF(豚熱)防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人茨城県建設業協会土浦支部(茨城)

令和4年11月4日、かすみがうら市内の採卵鶏農家で高病原性鳥インフルエンザの感染が確認され、茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定書」に基づき、土浦支部の会員を防疫支援活動のため現地へ派遣した。

令和5年3月1日、かすみがうら市内の養豚農場で豚熱発生が確認され、茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定書」に基づき、土浦支部の会員を防疫活動のために現地へ派遣した。



消毒を行い防疫作業に入った

茨建協土浦支部が出動 2班20人体制で防疫措置

かすみがうら市 豚熱

「1日かすみがうら市内における豚熱発生を想定し、県職員や関係団体などが現地入り防疫措置を行っている。約300頭を対象に殺処分・埋却処分を実施する。作業完了までは4日間を要する見込み。県と協定を結ぶ建設業協会からは、土浦支部が2班20人体制で出動。3日殺処分・埋却作業、4日殺処分・埋却作業に従事する。豚熱は今年度、3例目。

鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人茨城県建設業協会水戸支部(茨城)

令和4年12月21日に笠間市、令和5年1月9日には城里町の養鶏場で、高病原性鳥インフルエンザの感染が確認され、茨城県との「特定家畜伝染病発生時の防疫業務に関する協定」に基づき、水戸支部の会員を防疫支援活動のため現場へと派遣した。

笠間市では12月22日～26日までの5日間、会員36社延べ114名の作業員、城里町では1月10日～12日までの3日間、会員39社延べ156名の作業員を動員し、殺処分した鳥の梱包、埋却処理、養鶏場内の消毒作業等、24時間3交代制で従事し、殺処分を完了させた。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人茨城県建設業協会常総支部(茨城)

令和4年度に県内において発生した鳥インフルエンザの防疫作業に支部事業所から多数従事した。

令和4年11月にかすみがうら市内、令和5年1月に城里町内、令和5年2月には、八千代町・坂東市と立て続けに鳥インフルエンザが発生したため、支部会員は休日での防疫作業に従事した。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人茨城県建設業協会境支部(茨城)

令和4年度茨城県において鳥インフルエンザが多数発生した。

特に令和5年2月9日に坂東市で発生した際には、境支部管内で115万羽飼育の大規模農場であり、また前回の発生から1週間ということで迅速な対応を求められた。

翌朝7時から3交代24時間での作業開始の体制を整え境支部会員事業所から防疫作業に派遣し、4日間休日間わずの作業となり防疫作業は終了した。



CSF(豚熱)防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人群馬県建設業協会太田支部(群馬)

令和4年4月21日、太田市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て4月22日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」に基づく、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌日から埋却場所の仮囲いと掘削を開始。当面24時間体制3交代制で作業を実施し、従事企業23社、作業員延べ221名を動員。全9日間作業を継続し、5月2日に全ての作業を完了した。



CSF(豚熱)防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人群馬県建設業協会桐生支部(群馬)

令和4年5月9日、桐生市内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て5月10日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」に基づく、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌日から埋却場所での掘削を開始。従事企業7社、作業員延べ94名を動員。休工期1日をはさみ全7日間作業を継続し、5月18日に全ての作業を完了した。

また、同年6月14日には再び桐生市内の養豚農家から通報があり、6月15日に陽性が確定。翌日から作業を開始し21社、延べ165名を動員し休校日をはさみ全11日間作業を実施し、6月28日に全ての作業を完了した。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人群馬県建設業協会前橋支部(群馬)

令和5年1月18日、前橋市内の養鶏場から群馬県に鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月19日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」に基づく、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌日から埋却場所での仮囲いと掘削を開始。従事企業20社、作業員延べ258名を動員。また、同月1月26日には別の養鶏場から鳥インフルエンザの疑いの通報があり、県と国による検査を経て1月27日に陽性が確定。重複して対応することになり、11社延べ72名が対応にあたり、それぞれ2月3日に作業を完了した。



CSF(豚熱)防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人群馬県建設業協会館林支部(群馬)

令和4年9月20日、板倉町内の養豚農家から群馬県にCSF疑いの通報があり、県と国による検査を経て9月21日に陽性が確定。群馬県と本会は「特定家畜伝染病発生時における埋却処分に関する協定」とそれに基づく細目協定を締結しており、協力依頼の連絡を受け作業を開始した。

翌日から埋却のための掘削作業を開始。従事企業11社、作業員延べ114名を動員。全6日間作業を継続し、9月27日に全ての作業を完了した。



鳥インフルエンザ防疫活動 (及び放送メディアによる広報活動)

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人岡山県建設業協会(岡山)
関係する8岡山県建設業協会

令和4年10月27日に、倉敷市の養鶏場で高病原性鳥インフルエンザが発生した。協会は直ちに対策本部を設置し、発生農場における餌や汚染物品の埋却をはじめ、消毒ポイントにおける施設設営・消毒業務等多岐にわたる防疫活動を開始した。その後県内の4か所で鳥インフルエンザが連続したが、いち早く防疫措置を行い消毒作業に取り組んだことで、周辺地域への感染拡大を封じ込めることができ、一連の防疫業務は年内には終了することができた。

この間、128社の協会員が地域の安全・安心のために24時間態勢で防疫業務に従事し、防疫活動を行った。

また、これらの活動に対して、知事から協会本部と防疫活動に従事した8支部に感謝状が贈呈されることとなり、贈呈式には協会をPRするために制作した建設業協会のロゴ入りのそろいの防災服で出席し、その模様は夕方のニュースなどで報道された。



鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

一般社団法人埼玉県建設業協会(埼玉)

大里支部
川越支部
北埼玉支部
飯能支部

令和4年12月から令和5年1月にかけて、埼玉県内では高病原性鳥インフルエンザが県内4か所で発生し、埼玉県と埼玉県建設業協会が締結している「口蹄疫等家畜伝染病発生時における緊急対策に関する基本協定書」に基づき、埼玉県より大里・川越・北埼玉・飯能の4支部に対して防疫措置の要請がありました。

4支部ともに県からの要請に即座に対応し、高度な警戒を伴う中で、影響をできる限り封じ込める防疫措置に貢献しました。

特に、令和4年12月16日に深谷市内で発生した鳥インフルは、今季県内で初めてであり、殺処分数としては県内過去最大規模であり、大里支部においては休日返上で防疫措置に貢献しました。

また、その後も12月30日に狭山市内で発生し、県からの要請を受けて川越支部が年末年始休み返上で防疫処理の作業を行いました。

さらに、令和5年1月25日に行田市内で、1月31日には日高市内で発生し、それぞれ北埼玉支部と飯能支部が防疫措置に貢献しました。

鳥インフルエンザ防疫活動

災害復旧・防疫活動【防疫活動】

日向地区建設業協会(宮崎)

宮崎県2例目令和4年12月21日に、日向市にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする日向支部が、迅速に防疫を務めた。21日から22日の2日間で約15万羽を延べ35社(71名)で埋却作業を実施した。



災害復旧・防疫活動【防疫活動】

高鍋地区建設業協会(宮崎)

宮崎県1例目令和4年11月19日新富町、3例目令和5年1月10日川南町にて発生した鳥インフルエンザについて、発生箇所管内を所管とする高鍋支部が、迅速に防疫を務めた。1例目については19日から23日の5日間で約16万羽を延べ25社(41名)、3例目については9日から12日の4日間で約10万羽を延べ27社(44名)で埋却作業を実施した。



KAMIKABE による防災支援活動

防災支援活動

一般社団法人群馬県建設業協会(群馬)

群馬県建設業協会は、新型コロナウイルスのまん延を受け、感染症と自然災害が同時に発生する複合災害に対し、乱雑になりがちな避難所のかたちを整え、避難所に求められるポイントを整理。建設業ならではの提案として、安心なスペース、3密対策、仮住まいの生活の質を高めることを目的に「KAMIKABE」を提案、作成しました。

令和2年6月16日に群馬建設会館で行った記者発表時には、実際にKAMIKABEを展示し、多くの関心を集めて一般紙で大きく取り上げられました。また、群馬テレビのみならず、テレビ朝日「スーパーチャンネル」においても特集が組まれるなど、その関心の高さは大きいものでありました。

群馬県内の各自治体において組立訓練を行い、実際の製品を寄贈するほか、令和2年7月の九州における豪雨災害に対し、全国道の駅連絡会の協力を得て福岡、熊本、鹿児島各県内にある道の駅7カ所に計100セットを支援しました。その後も継続して備蓄し、令和3年12月には沼田高校において訓練を実施し、高崎市立金古小学校では2年続けて展示を行い、太田支部においては太田市と連携して令和4年12月に組立訓練を行いました。



災害復旧・防疫活動【災害復旧・防疫活動】

一般社団法人 新潟県建設業協会 村上支部(新潟)

令和4年8月3日から4日にかけて、前線が停滞し、新潟県の北部地域では非常に激しい雨が降り、記録的な豪雨となった。この豪雨により、村上市や関川村では家屋の浸水や、国道113号等への土砂・流木が流出堆積する災害が発生した。

北陸地方整備局、新潟県から当協会に災害協定に基づく災害支援要請があり、迅速に応急対応を行うため、村上支部の会員は昼夜を問わず、懸命な作業を実施し、早急の災害復旧を図った。

また、令和5年1月5日、村上市の養鶏場において、高病原性鳥インフルエンザの発生が確認された。

新潟県との災害協定に基づく応援要請を受け、直ちに会員会社らが施設敷地内に設けられた埋却予定地で殺処分鶏の運搬・埋却作業の体制を整え、建設機械等をはじめ多くの資機材を投入して、24時間体制で埋却作業に努め1月19日には全埋却物の投入及び埋戻しが完了した。



防災無線機の貸与および被災情報伝達訓練

防災支援活動

一般社団法人甲府地区建設業協会(山梨)

甲府地区建設業協会では、平成24年より毎年「災害時における応急対策業務に関する協定」に基づき、4市1町(甲府市、南アルプス市、甲斐市、中央市、昭和町)、山梨県中北建設事務所、会員企業95社に対して無線機を使用した被災情報伝達訓練を実施している。

東日本大震災時においては、通信手段が機能せず、安否確認・災害復旧要請などが大幅に遅れるという問題が生じた。この経験から、災害時の安否情報を素早く集め、円滑な復旧活動を実施するべく、協会内に無線基地局を配備し、上記4市1町および山梨県中北建設事務所、および会員企業に無線機を無償貸与した。さらに、実際の災害発生に備え、毎年訓練を実施している。



防災支援活動

一般社団法人市川建設業協会(山梨)

令和元年に魮沢警察署と協定を締結し、以降地域の花火大会会場、2020 東京オリンピック聖火リレー会場等で、国際テロリズム未然防止を目的に、重機等で車両突入や人的な妨害活動に協力している。

地域の建設業者の協力により、地域を守るための社会貢献として令和元年、3 年、4 年と活動を行っている。



重要文化的景観地区内の「春・夏水路整備」活動

環境美化・保全活動

一般社団法人岩手建設業協会一関支部(岩手)

一関市巖美町本寺地区にある骨寺村荘園遺跡一帯は国の重要文化的景観に選定され、世界文化遺産に登録された「平泉の文化遺産」の構成資産に追加する拡張登録も目指しております。

骨寺村荘園遺跡の景観保全の観点等から、一関支部では、平成 20 年 3 月に土水路等の保全や整備に関してボランティアでの実施を内容とした、骨寺村荘園遺跡水路等の整備に関する協定を締結しました。同年から年 2 回春・秋と継続し令和 4 年度で 15 年目の活動となっています。

田園風景を後世に残すお手伝いをしたいとの思いからの活動で、これからも貢献を続けていきます。



防災支援活動

一般社団法人奈良県建設業協会(奈良)

奈良県建設業協会は傘下協会が県や市と締結している災害協定に基づいて要請があったという想定の下、道路上の倒木や崩土の除去・撤去作業の訓練を実施している。毎年支部の持ち回りで実施しており、令和 4 年は奈良県中和建設業協会が参加し、関係団体との連携を深め、有事の際に迅速に災害対応に当たれるように備えている。

県道花壇への季節の花植えの美化活動
(スマイルロードサポーター)

環境美化・保全活動

宮城県建設業協会仙南支部(宮城)

宮城県建設業協会仙南支部では県合同庁舎前から柴田農林高校までの 3 カ所県道花壇に毎年 2 回、花苗の植栽を支部会員企業社員と土木事務所職員と共同で 2012 年から実施している。

花壇の除草と一緒にゴミ拾いも会員企業社員が輪番で行って美化に務め、県道を走行する車のドライバーや歩行者、県合同庁舎来庁者を和ませている。

植栽する花の種類は、夏秋はマリーゴールドとサルビアで約 1,300 本、冬春はパンジーとチューリップで約 2,800 本で、花苗は近くの柴田農林高校の生徒が実習で育てたものを購入している。農林高校からも立派な花が間近に見られることで、生徒の実習成果が見られると感謝されている。



環境美化・保全活動

宮城県建設業青年会(宮城)

全国建設青年会議で制定した「全国建設青年の日」事業として行う社会貢献活動を通じ、地元建設業の役割や公共事業の必要性などを広く県民にアピールしながら、地域のニーズを的確に把握するとともに建設業に携わる者が、それぞれの地域の人々や社会と良好なパートナーシップを築き、豊かな自然と共生しながら住みやすい環境づくりに貢献することを目的に実施。

2012年から「みやぎスマイルロード・プログラム」として9月～10月の間の年1回、道路美化活動を宮城郡利府町にある宮城スタジアム付近の県道260号線270号線の歩道、路肩等において2012年から実施平成26年2月に「スマイルサポーター」の認定を受けた。青年会会員企業が、清掃作業を実施し、地域の安全・安心な道路環境づくり等を積極的に取り組んでいる。



佐賀県庁周辺道路の清掃活動

環境美化・保全活動

一般社団法人建設業協会佐賀(佐賀)

平成28年から毎年実施している本活動は、昨年で7回を数える。

同協会は、佐賀市に本社所在地がある会社で構成されており、北は福岡市に隣接し、南は有明海までを望むという広い地域で、山から海まで地域の実情に合わせた活動を行なっている。

その中でも、佐賀市中心地域で実施する「道路清掃活動」は、永年続けている奉仕活動であり、年2回県庁前周辺地域や佐賀バルーンフェスタ会場周辺で実施していたが、新型コロナの影響で、現在は秋の1回実施に変更している。

県庁周辺は自然豊かな景観をなしており、公園などで週末には各種イベントが実施されるため、来訪者も増えていることから、周辺を綺麗にして気持ちよく過ごしてほしいとの思いから本活動を行っている。



環境美化・保全活動

富山県建設業協会砺波支部青年部会(富山)

富山県建設業協会砺波支部青年部会では、毎年「全国建設青年の日」に合わせて、支部管内の砺波市、南砺市の街路や公園の環境美化活動を建設業のPRと地域貢献活動を兼ねた行事として平成16年度から実施している。

令和4年度は8月3日に、国指定史跡である増山城址の遊歩道の草刈り、清掃、側溝清掃を行った。この遊歩道は地元有志で管理されていたが、高齢化に伴い十分な管理ができなくなっていたところでもあり、砺波市からの要請もあり実施したものである。

当日は青年部会員が参加し、和田川ダム右岸の登山口から増山城二の丸跡までの延長約500mの区間の遊歩道、公園などの草刈り、側溝清掃などをボランティア活動として行った。



◆社会貢献・SGDs活動事例概要【第4条(会員企業)】

土砂災害による国道閉鎖時の災害復旧活動

災害復旧・防疫活動【災害復旧活動】

株式会社小森組(和歌山)

令和4年6月26日午後6時50分頃、大雨によりライフラインである国道42号線沿いの法面が崩壊し、完全に国道を塞いだ。日曜日の夕方であったが、小森組従業員が偶然居合わせたため、そこから社内連絡網を使ってすぐに作業に参加できる従業員と重機の確保、残土と倒木を仮置きするための自社所有地の開放を実施し、紀南河川国道事務所と連携しながら全員が一丸となってライフラインの早期規制解除を目指し、夜を徹しての土砂の撤去を行い、翌朝には土砂の撤去が完了した。

今回、迅速に災害対応できたのは、日曜日の夜にもかかわらず多くの同社社員が各々に緊急性を理解し同じベクトルに向かって、作業を進めていったからである。

上記の災害対応が評価され、同社は令和4年12月

12日 国土交通省近畿地方整備局長から「局長感謝状」を贈られた



地域小中学校の教育活動への支援

地域活性化への取組

渡富建設株式会社(福島)

渡富建設(株)は、全国に先駆けて小中一貫校としてスタートした郡山市立湖南小中学校の教育活動を支援しています。平成24年から毎年、生徒たちが冬季スキー授業に使用する学校の裏山のスキー場グレンデを建設機械を使い整備しており、また10月に行われる学校の文化祭「水芭蕉祭」においても、体育館における音響設備の貸し出し、設置・撤去、及び当日の音響機械操作を同じく平成24年から毎年、支援しています。

この他にも、平成30年度から毎年、建設機械を使用しソフトテニス部のコート整備を行っています。

同社は、創業地である湖南町で子どもたちが元気に成長できるように自分たちが出来ることを貢献していきたいと活動しています。



本社ビルロビーを利用した地域活性化

地域活性化への取組

丸彦渡辺建設株式会社(北海道)

2016年より創業100周年事業として、本社ビルの1階ロビーを利用し、近隣の住民や学生が作成した写真、絵画、陶芸、手芸等の作品の展示、コンサート等を自由に開催できる場として、「まるひこアートスペース和(なごみ)」を設立し、地域活性化や社会福祉などの活動を実施している。

<2020年度の活動>

・サマーコンサート Heart to Heart Music Concert

<2021年度の活動>

・4人展 明日への歩

・いしかり縄文パネル展 石狩振興局 JOMON 未来へ続く一万年ストーリー

<2022年度の活動>

・こどもアール・ブリュ

ット北海道作品展

・北海道盲導

犬協会写真パネル展



～未来の担い手の為に～

「ふるさと未来塾」の開校

地域活性化への取組

株式会社小原組(静岡)

ふるさと未来塾は、菊川市内の地域に密着する各業種の代表企業が、子どもたちに自分たちの住む地域に愛着を持ち、生まれ育った菊川市で暮らし、働く事の良さを考える機会とすることを目的とした学習です。

小原組は、平成27年の本学習の発足当初より、古くから地域に根づく土木建設企業として、市内の建設業者を代表し、子どもたちに地元の建設企業として働く事の魅力を伝えてきました。令和4年10月5日菊川東中学校の2年生117名を対象に行われた学習では、小原組の社員が講師を担当し、生徒達にいかに建設業が身近で、自分たちの生活の中に息づいているかを、話しました。

今後も、土木建設業が如何に人々の生活に密着し、地域を作り守っているかを伝え、一人でも多くの「未来の作り手」が増えるよう、この活動を続けていきたいと考えています。



豊平川清掃活動

環境美化・保全活動

岩田地崎建設株式会社(北海道)

岩田地崎建設株式会社は札幌のより良いまちづくりに協力した活動を継続したことが評価され、札幌市より「令和4年度さっぽろまちづくりスマイル企業シルバー企業」に認定され表彰を受けました。さっぽろまちづくりスマイル企業認定制度では、一年度間に一定基準以上の地域のまちづくり活動に積極的に協力した企業を「さっぽろまちづくりスマイル企業」として認定しています。そして、認定企業のうち、特に積極的にまちづくり活動に取り組み、その功績が顕著であると認められ、3年以上一定基準の活動を継続している企業は「ゴールド企業」「シルバー企業」に認定されます。

表彰された一例として、2007年度から会社周辺市道および豊平川左岸(上白石橋~平和大橋~東橋 間)の清掃活動を毎年、年3回行っております。河川敷や草むらの中に捨てられていた、たばこの吸い殻や空き缶などのゴミ拾いを行っています。



清掃活動「宮城の日」

環境美化・保全活動

宮城建設株式会社(岩手)

宮城建設では地域社会と協調するための活動として、平成30年より6月と10月の年2回「宮城の日 清掃活動」と名づけ、全社を挙げて地域の清掃活動を継続して実施している。

令和4年度は6月17日に本社支社市内各所の社屋周辺の道路歩道下線などを清掃。10月6日には久慈港及び小本港の海岸清掃を行った。これらの活動を通じ、経営理念である「わが者に関わる全ての人々が幸せになる会社と作り、それを通じて社会に貢献する」を具現化するため、全社員が一つとなり積極的に実施している。



環境美化 サイクリングロードの清掃活動

環境美化・保全活動

不二工営株式会社(北海道)

不二工営株式会社は、平成19年から16年連続で、毎年4月に道内マラソンのトップを切って行われる「春一番伊達ハーフマラソン大会」のコース一部を開催前に環境美化の一環として清掃活動を行っております。

マラソンコースは、サイクリングロード5.4キロメートルでマラソン開催以外にも桜の名所として市民の散歩コースとして、広く市民に利用されているサイクリングコースです。

清掃活動は、当社と協力会社従業員30人前後が参加し、沿道の空き缶・ペットボトル・木切れなどのごみを拾い、軽トラック2台に積み込み清掃活動を行っております。

本年度からマラソンコースが変更となり、コースは使用されませんが、市民の散歩コースとして多くの市民が利用されており、今後も気持ちよく散歩コースとして利用もらう為今後も継続して活動する計画です。



地域に調和した環境活動

環境美化・保全活動

伸和興業株式会社(宮城)

伸和興業株式会社は、平成23年1月に宮城県仙台土木事務所のスマイルサポーターに認定され、梅田川の扇町橋から福田橋の両岸(延長1,100m)を年に2回、12年間美化清掃を実施しております。

伸和興業で取り組んでいるSDGsに地域社会への貢献を掲げ、地域に調和した環境活動に取り組んでおります。



環境美化・保全活動

株式会社春日部組(宮城)

春日部組はボランティア活動を積極的に行っており、「阿武隈川清掃美化運動」には平成10年の第1回目から毎年参加している。その他にも、平成25年から毎月1回、町内ゴミ拾い活動を実施することとし、清掃活動してから通常の仕事に就くこととしており、社員一同が積極的に環境美化・保全活動を行っている。

また、「企業は社会と切っても切り離せない関係にあり、広くコミュニケーションを図り、良き企業人として連携と協調を持って社会に貢献する」をモットーに法人会や丸森町観光物産振興公社理事・観光物産館「八雄館」副理事長として地域振興にも貢献している。



丸森町へのインバウンドも減少したことから、放置竹林を活用し、冬の観光スポットとして創出すべく、春日部組が企画し町観光物産振興公社等の協力を得て放置竹林を活用した「竹灯り回廊」を開催した。

約2千人を超える見物客が寒い夜の幻想的風景を楽しみ、次年度も開催し、「冬の丸森」観光スポットとして定着させたいと願っている。



町の中心「亀ヶ城公園」の清掃奉仕活動

環境美化・保全活動

藤田建設工業株式会社(福島)

町の中心部にある棚倉城は、梯郭式の平城でした。建築物は残っていませんが、町民には、亀ヶ城公園として親しまれており、160mに渡る石垣と270本の桜があり、4月の開花時期には春のお祭り「たなぐら sakura マルシェ」で賑わいます。また、追手門の跡地近くには樹齢600余年の大ケヤキがあり棚倉町のシンボルとなっています。

2014年以降、毎年4月に女性社員互助会「藤の会」を中心に、関連グループ会社も含めた「SDGs委員会」と共に清掃活動を行っており、花見、祭事、散歩、ジョギング等に来園される方々が気持ちよく過ごしていただけるようにしています。



環境美化・保全活動

佐藤工業株式会社(福島)

佐藤工業株式会社では、会社周辺の福島市泉地内(国道13号福島西道路)にある泉地下歩道の構内、階段、手すり、照明、案内板の清掃を毎月1回実施しています。この地下歩道は、近隣の学校の学区内であり、子供からお年寄りまで通行も多い箇所である。

2014年9月から始めた泉地下歩道清掃も2023年3月で101回目を迎えた活動となりました。

地元の環境美化・保全に取り組むと同時に、清掃活動中や移動中にお会いする地域住民の方々に挨拶することでコミュニケーションを図り、建設業に対するイメージアップにもつながっていると考えています。



多年にわたる地域清掃活動

環境美化・保全活動

石川建設工業株式会社(福島)

石川建設工業株式会社では、これまで長きにわたり本社所在地である「南相馬市原町区大町地区」の清掃活動に努めてきました。日頃から地域のゴミ集積場周辺の清掃等の環境美化に取り組むと共に、地元である相馬地方の伝統の「相馬野馬追」(※国の重要無形民俗文化財)が開催される時期に合わせて毎年祭りが開催される前に社員全員で清掃活動も行ってきました。この活動は20年以上にわたり継続して実施しています。

このことが地域の環境美化及び衛生向上に貢献したということで、区長をはじめ地域からの推薦もあり、南相馬市より令和4年度の環境美化運動推進協力者団体表彰を授与致しました。



環境美化・保全活動

田畑建設株式会社(群馬)

田畑建設株式会社では平成 14 年より市道の藤岡市管理の遊休地に花壇を設置し、毎年花を植えて環境美化を図ることにしました。

ボランティア団体名を「田互作」(吾ではなく互)として、社員の中から毎回 10~20 名の者が入れ替わりながら土地を耕し、肥料を入れ、季節の花を植え続けております。

最近では冬期はパンジー、ビオラを主体とし、夏期から秋頃まではコキアを植えて緑から赤へ変化する彩りを添えています。

定期的な水やりと手間のかかる草取りには手を焼いておりますが、通行する人達や車の方達から「きれいだね」「毎年ありがとう」と言われ、やりがいと張り合いを感じています。

平成 27 年 10 月には群馬県知事から、令和元年 5 月には国土交通大臣から、それぞれ感謝状をいただきました。



国道ゴミ拾いボランティア活動

環境美化・保全活動

株式会社小宮山土木(長野)

株式会社小宮山土木では、県道の美化清掃をボランティア活動として長年取り組んでいます。2006 年からは立科町社会福祉協議会と協賛し、国道 142 線ゴミ拾いボランティア活動を毎年開催しています。

また、企業活動を通じて SDGs の達成に向けた様々な取組を進めています。

◆社会福祉活動

・立科町社会福祉協議会をつ

つて就労移行支援の必要な方(障害をお持ちの方・難病のある方等)が一般企業に就職するために必要な訓練の提供などの支援を続けている。

◆SDGs への取組

・長野県 SDGs 推進企業登録(第 3 期【2023 年 1 月】)後、SDGs の目標達成を目指し活動を継続している。

【省エネ・温暖化対策の計画・取組】

自社の温室効果ガスの排出量を把握し、排出の抑制に取り組んでいる。また、事業活動に必要な電力の一部を太陽光発電の電力で賄うことで、自社の CO2 排出量を削減する取組をしている。等



環境美化・保全活動

株式会社小島組(神奈川)

株式会社小島組は、株式会社コマホールディングスのグループ会社の有志女性社員で 2003 年 4 月に「すずらん会」を結成して地域ボランティア活動を行っております。

2006 年 5 月からは厚木市の市民活動である花未来事業に参加し、厚木公園の 1 区画の花壇の手入れや清掃、年 2 回の花植え作業などを行っております。

厚木公園は市民の方から「はとぼっぽ公園」として親しまれている公園で、作業を行っている公園で遊んでいる子供達がお花を見て「かわいいお花だね」とか、通行人の方からも「ご苦労様」や「いつも綺麗にしてくれてありがとう」「綺麗な花だね」と労いの言葉をかけてくださり、とても励みになっています。また、毎年 5 月に行われる相模川クリーンキャンペーンの清掃やあつぎ鮎祭り早朝清掃にも参加しております。

今後も地元企業として地域に貢献できるように継続して地域美化につとめていきたいと考えております。



ため池(蛭沢池)の魚の保護と移設についての課外授業

環境美化・保全活動

株式会社小松組(静岡)

株式会社小松組は、ため池群整備事業において、池の水を抜く際に、池の中の生き物の移設と特定外来種の駆除作業を行いました。この活動は、元々生物好きな現場代理人がため池の生態系に配慮したもので、令和 2 年度より実施しております。

なかなか機会のない事でもあり、誰かに見てもらいたいという思いから、令和 3 年度、4 年度には、現場近くの小学校生徒を招いた魚の保護と移設についての課外授業を企画しました。桶に移された魚を見せながら特定外来種が及ぼす問題やため池の役割・工事の必要性を伝え、その反響から、人のためになった、成果があった事だと感じており、工事をしながら自然を守る取組みを、学びの場として提供しました。



六渡寺海岸の清掃活動

環境美化・保全活動

株式会社牧田組(富山)

牧田組では、環境保全活動として8年前より、年1、2回六渡寺海岸の清掃活動を行っています。射水市庄西町に位置する六渡寺海岸は、両側を庄川と小矢部川に挟まれた海岸となっており、富山湾でも多くのゴミが流れつく海岸である。

令和4年度は、7月3日に富山県、「民できれいにせんまいけ大作戦」の一環となる清掃活動、9月18日には「FMとやま清掃キャンペーン～六渡寺海岸からゴミをなくすには～」の清掃活動に参加した。

本社にほど近い海岸の清掃美化活動を通じて、社員の環境保全・社会貢献の意識を高め、地域に貢献する建設企業を発信している。



千鳥ヶ浜海岸清掃活動

環境美化・保全活動

池田建設工業株式会社(石川)

池田建設工業では、千里浜(千鳥ヶ浜)の海岸の清掃活動を平成28年ごろから社員の有志で取り組んでいる。千鳥ヶ浜漂着ゴミが多く、夏の行楽シーズンには海水浴客が多く訪れる観光地であるためピーク時にあわせ活動を行っている。

令和3年からはSDGs活動をきっかけに自社で何かできることがあるのではないかとこのことで自社目標のひとつでもある社会貢献活動としてより取り組んでいる。昨年の活動では社員20人が2t近くの漂着ゴミを集め、当時地引網体験で訪れた海水浴客から「ありがとう」と声をかけてもらったなど観光地の美化だけでなくおもてなしにも大いに貢献している。



道路愛護ボランティアで地域を美しく

環境美化・保全活動

安達建設株式会社(富山)

安達建設では約15年前より年3回、5月・7月・9月に道路愛護ボランティアを行っています。

これは建設業としての使命である地域貢献活動の一つで、地域住民の方々がより過ごしやすい環境で生活してもらおうと続けている活動です。

城端地域では毎年、5月4、5日に約300年前から続いている曳山祭り、9月15日には城端の町がむぎや一色に染まる秋のむぎや祭りが開催されるため地元住民の方々が祭りを楽しみに来た方に、より、城端という地域を魅力に感じてもらいたく祭りが開催される前に地域清掃を社員一同で取り組んでいます。

このボランティアは2009年の5月以降より5月、7月、9月の年に3回以上を目標に継続して行っており、昨年はコロナ禍ではありながらも年3回実施することができました。

約15年続いている行事として地域住民の方々からも認められています。



川尻海岸の美化作業

環境美化・保全活動

株式会社常盤建設(鹿児島)

指宿市開聞川尻地区にある川尻海岸の海岸線は、800m以上あります。川尻漁港が隣接していて、砂浜はウミガメの産卵地でもあり、南薩地区の貴重な水産資源・観光資源の地域となっています。

しかし、川尻漁港が外海に面していることもあり、景観を悪化させるだけでなくウミガメの産卵を困難にする、流木などのゴミが砂浜に流れ着き、溜まります。

株式会社常盤建設は、貴重な水産資源を次世代の子供たちに残したいとの思いで、7年以上前から地元の住民や野球少年団などのボランティアと一緒に、川尻海岸美化清掃をしています。

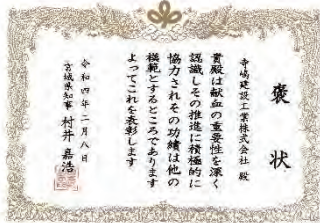
清掃にあたり、流木などかなりの量になるため、バックホウなどの重機や10tダンプを出動させ、大きく貢献しています。



寺嶋建設工業株式会社(宮城)

寺嶋建設工業は、平成 22 年より献血活動をはじめ、これまで 17 回の献血活動を実施しています。

その功績を称えられ、令和 3 年 4 月 1 日に日本赤十字社宮城県支部長より感謝状を拝受しました。また、令和 4 年 2 月 8 日には宮城県知事より褒状を拝受いたしました。



株式会社ミヤマサ建設(富山)

ミヤマサ建設は、地域貢献の一環として、平成 24 年から、砺波営業所がある砺波市柳瀬防犯組合に参加し、青色回転灯搭載車(当社所有パトロール車)を導入し、毎月 20 日防犯パトロール活動を行ってきた。また、当地域で行われる防犯活動へも積極的に参加している。

これらの経験を活かし、令和 4 年 4 月から、工事事務所のある富山市古沢地区防犯組合にも参加し防犯パトロール活動を開始した。毎月 10 日、当地域をパトロール車で巡回している。

また、古沢地区防犯組合と連携して地域開催の防犯イベントへの積極的に参加し、地域住民の方々とのコミュニケーションを図ることにより、地域に根差して活動をしている。



桜の植樹及びサステナブルなまちづくり

株式会社橋本店(宮城)

橋本店では 2020 年 4 月に SDGs 宣言を行い、持続可能な社会に向け様々な取組を進めています。その一部として

- 地球環境の保全
 - ・桜プロジェクト(宮城県内への桜の植樹)
- サステナブルなまちづくりへ
 - ・地域まちづくりへの参画
(定禅寺通まちづくり協議会への参画)
- 気候変動・脱炭素化対策
 - ・ZEB Ready(BE10.5 以下)の提案採用率 100% (2021 年)
- 働き方改革
 - ・ワークライフバランスへの取り組み
勤怠管理システム、PC シャットダウンシステムを導入し、適正な労働時間管理を実現



『自然観察会』を通じた次世代への自然環境教育

株式会社加藤建設(愛知)

加藤建設では人と自然の共生を目指し、会社独自で取り組む環境配慮活動「エコミーティング」を 2009 年より推進しています。自然との関りが希薄になりつつある昨今において、豊かな自然を未来に継承するためには、次世代の育成が不可欠です。

子供たちが自然と親しみ、生き物の魅力を感じ、自然環境の尊さについて学んで頂く「環境教育」の場を『自然観察会』という形で提供しています。小学 2 年生までは「春と秋の生き物探し」として 2 年回授業を行い、水辺、草地、森林の 3 つのエリアで、生き物がどういった場所に生息しているの、季節間での生き物の変化などを学習して頂きました。

秋には旬の木の実を用いて、児童一人一人がオリジナルの苗木を作成。

6 年生はフィールドワークを通して守る自然について学習し、普段の生活において自然を守る手法を楽しみながら考えて頂きました。陸の豊かさを守る役割のビオトープを通じて、子供たちへ質の高い環境教育を提供することができ、海や陸域の自然を守る将来の担い手づくりにも貢献できた活動であったと感じています。



◆広報活動事例概要【第3条(協会・支部)】

作業服アップデートと交流会でのファッションショー (新4Kを目指して)

建設業ふれあい活動

青森県建設業協会青年部会東青支部(青森)

建設業への若手層の入職促進策の一つとして、青森県建設業協会青年部会東青支部では様々な“建設業の魅力発信”に取り組んでいます。そして今回、令和3年に始めた「建設業のイメージをアップデート」する試みとして、現状の作業服の課題を踏まえ「デザイン性が高い」「着たくなる」「便利な」「快適な」をキーワードに、新しい作業服をデザイナーの協力のもと、各会員によるワークショップを経て製作し、そのお披露目を地元高校生等を対象に行いました。

若手が恰好や雰囲気などに拘る傾向を鑑み、あえて「新4K(感動・カッコいい・結構モデル・稼げる)を目指して」をキーワードに、建設現場が魅力的なものになっていくための一つの手段として「作業服アップデート」を試みたものです。お披露目(ファッションショー)は、高校等との交流会で行い、ポーズをとり作業服を披露～ものづくりの魅力などを語り意見交換も行いました。参加者からは盛んに喝采を浴び、貴重な体験だった、との意見が多数で好評でした。

今後も作業服の製作は継続し、さらに様々な視点から建設業のイメージをアップデートする試みに取り組んで参ります。



建設業のイメージアップのために

建設業ふれあい活動

有田建設業協会和歌山有田建育会(和歌山)

地域の建設業は、地域の雇用を支え、自然災害等の発生時には危険を顧みず被災箇所の応急対応を行い、地域の安全・安心を守るなど地域を担う重要な産業であります。建設業の就業者数の減少が大きな問題となっています。そのような中で、なんとかせなあかんと有田建設業協会では平成30年度に建設業に従事する後継者などで構成した「和歌山有田建育会」(青年部会)を設立いたしました。

和歌山有田建育会では、建設業の後継者育成や地域を活性化するために毎年計画を立て建設業のイメージアップ活動やボランティア活動を実施しています。

令和2年には、県立有田中央高校に訪問し防災スクールと題した課外授業を実施し、令和3年には各自治体の教育委員会に防犯グッズの配布・交通安全運動を実施しました。令和4年11月20日に、有田川町で開催されたイベント「第1回ありだわが楽市」を共催し、来場した子供たちやその保護者に対し、建設業のイメージアップを図るため建設機械を使ったブースを出展しました。建設機械を体験していただくことで、子供たちとその保護者の方は大変興味を示し、建設業の魅力を発信することが出来ました。



はたらくるまジュラシックパーク

建設業ふれあい活動

一般社団法人福井県建設業協会青年委員会(福井)

はたらくるま(主に建設系・重機車両)を恐竜にみたて、広大な駐車場内に点在的に展示し、重機・車両間を自家用車が縫うように周遊できる通路を設け「サファリパーク方式」で自家用車に乗ったまま低速移動で観覧していただくイベント「はたらくるまジュラシックパーク」を実施しました。20年度はサファリパークとして実施し、今年で3回目の開催となります。

サファリパーク方式を採用することで、コロナ禍においても感染のリスクが回避され、建設重機に興味のある子どもから大人までもが楽しめるイベントとなりました。参加者の100%近くが良かったと評価しており、建設業のイメージアップにつながったと考えております。



フォトコンテスト(Instagram)

SNS・メディアによる広報活動

一般社団法人栃木県建設業協会(栃木)

栃木県建設業協会では、創立100周年を機に、様々な広報活動を行い、次の100年に向け建設業のイメージアップを図りました。

◆フォトコンテスト(Instagram)

若者に人気のSNS「Instagram」にてフォトコンテストを開催。青少年から高齢者までの幅広い世代から、予想を遙かに上回る約6,000名以上から応募があり、協会の100年の歴史と建設業の魅力・やりがいを広く県民に発信しました。

◆シンボルマークの刷新・地元新聞への広告掲載

創立100周年を機に、シンボルマークを刷新。栃木(Tochigi)の「T」、建設(Construction)の「C」の間に、古来の建築にまつわる「千木」をモチーフに交差する形状をアルファベットの「X=Trance(変える・超える)」に見立てたロゴとしました。これを活用し、「次の100年へさらなる「進化」を目指して」とした新聞広告を掲載しました。

◆足場シート・仮囲いのペイントを施工現場に設置
創立100周年の足場シートと仮囲いのペイントデザインを会員企業へ頒布し、会員企業の施工現場等に設置。一般の方々に建設業の活動について、イラストを通じて目に触れ感じて頂くよう魅力発信を行った。

等、他にも様々な広報活動を実施し、建設業のイメージアップに努めた。



テレビ番組「建設人(つくりびと)」 -土佐の国づくりの歴史をつなぐ-

SNS・メディアによる広報活動

一般社団法人高知県建設業協会(高知)

高知県建設業協会では、建設業が持つ地域での役割や理解を訴求するため、本県の国づくりの歴史をたどりながら、生活に欠かすことのできないインフラ整備や災害 対策の事例 等を紹介した番組「建設人(つくりびと)」を制作し、令和 4 年 10 月 16 日に高知放送(日本テレビ系列)にて放送。

番組内では、「国土強靱化」について取り上げ、南海大地震の際起こるとされる津波の被害を最小限に抑えるための被覆ブロックの紹介、3D プリンタを使った「集水柵」や ICT 施工現場の紹介、長年水害に悩まされてきた地域での放水路の工事現場等を取材。

それぞれの現場に従事する人々が、プライドを持って仕事に打ち込んでいること、また関係各所の長にもインタビューをし、地域のみならず国・県等と一丸となって国土強靱化対策に取り組んでいることをアピールした。

本県の建設業が持つ役割や必要性を、この番組を通じて広く県民に周知することができたと思料する。



◆広報活動事例概要【第 4 条(会員企業)】

一級河川『永野川』災害復旧事業での広報活動

建設業ふれあい活動

永野川改良復旧工事等安全協議会(栃木)

令和元年東日本台風 19 号に伴う豪雨により、特に被災の大きかった永野川の市街地区間では、5 か所の堤防決壊により甚大な被害が発生しました。復旧工事での工区が多数になり、多くの受注業者となることから、業者間の情報共有化や発注者からの情報の一元化を受けることから「永野川改良復旧工事等安全協議会」を設立しました。(協議会は栃木県建設業協会会員企業で構成)

協議会では、市民への建設業の PR として、工事の進捗状況を掲載する【かわら版】を発行し、全世帯に配布しておりすでに3回発行しております。

また、堤防ウォーキングを2回開催し、工事と建設業の役割を参加した多くの市民にご理解頂きました。ホームページを開発し、護岸工事の施工前、施工後の状況や河川の上空からドローンにより撮影しホームページへ掲載し、本事業完了まで進んでまいります。



現場見学会や試乗体験の日常的な開催 SNS・メディアを活用した広報活動

建設業ふれあい活動

有限会社竜王興産(滋賀)

竜王興産では、近隣保育園やこども園を対象に現場見学会や試乗体験の継続的に開催しています。また、工事現場にオリジナル看板を設置し、いつでも現場見学会を開催できる体制を整えています。

また、解体工事の施工動画や、他施工工事のタイムラプス動画を SNS で掲載し、担い手確保を目指し情報発信しています。



株式会社秋山組(兵庫)

秋山組は、兵庫県神戸市にある長田税務署からの依頼を受け、地元長田区内の小学校 6 年生の生徒を対象に令和元年から租税教室の講師を当社社員が務めている。税金はなぜ必要なのか、どのような事に使われているのかを施工している災害復旧工事や公共下水道工事の説明を交えて授業を行っている。建設業の必要性や重要性について、建設業を身近に感じてもらえるように説明し、生徒だけでなく、先生をはじめ関係者の方々も大変興味深く話を聞いていただいている。今年、2023 年 2 月 9 日に神戸市立駒ヶ林小学校で 64 名の生徒を対象に実施した。令和 2 年に長田税務署長より感謝状をいただき、翌年の令和 3 年には大阪ガス株式会社より地域貢献表彰をいただいた。



写真集の発刊ならびに写真展の開催

株式会社蜂谷工業(岡山)

災害復旧、日常生活を支える学校や病院の建築、道路や橋などの社会基盤整備などわれわれ建設業の仕事は地域社会の発展になくてはならない仕事です。しかしその仕事ぶりは多くの人目のふれるものではありません。今回の写真集発刊や写真展の開催は、われわれ地域建設業のありのままの姿を知ってほしい。建設現場でどんな笑顔が飛び交い、どれほど真剣な眼差しにあふれているかを一人でも多くの方に見ていただきたい。

そのような思いから蜂谷工業では写真展を企画。橋梁、トンネル、道路など土木現場で働く人をクローズアップした写真で「インフラメンテナンス大賞」を受賞した写真家の山崎エリナさんを起用し、ローカルゼネコンで働く人たちの素顔を広く発信いたしました。



株式会社砂子組(北海道)

株式会社砂子組では建設業界・企業の PR、イメージアップ、認知度向上を目的に 2019 年より Instagram を開設しマーケティング手段として活用している。建設現場で働く社員の姿や建設会社で働く雰囲気を感じ取ってもらうため投稿内容を「現場で働く人」にフォーカスし閲覧者にとってオープンかつリアルな情報を発信している。ユーザーの信頼獲得の一步として週 3 回以上の更新を継続。更新担当は内勤部門の 20 代若手社員 5 名が担い各自が自ら現場に足を運び、撮影した写真と想いを言語化している。広報担当者の姿も定期的に投稿することで顔の見える広報に努め PR を積み重ねてきた。砂子組入社志望者から Instagram 投稿に関して好意的な感想を聞くことが多く、建設業に携わっていく若者へのイメージアップに効果があることが実証できている。

また、他社広報担当者と「SNS 向上委員会」を立ち上げ異業種間での広報課題の共有、情報交換を行い情報発信強化に努めている。双方のユーザー層への PR としてコラボ投稿を行うなど現在も委員会活動の展開を進めている。

